

F

A

B

レ

ポ

ー

ト

No3

2011.3.25  
発行

## ～サポート室便り～



サポート室の取り組み・耳寄り情報などをお伝えします

## 自己啓発セミナー

『アサーティブなコミュニケーションスキルを学ぼう』を開催しました。

平成23年3月17日、森田 汐生氏（NPO法人アサーティブジャパン代表理事）を講師とした自己啓発セミナーを開催し、且野原・挾間キャンパスを合わせ、多くの参加をいただきました。セミナーでは、自分の気持ちや要求を、相手の権利を尊重しながら率直に、誠実に、対等に伝えるコミュニケーション法をロールプレイを交えながら分かりやすく講演していただきました。変えるのは他人ではなく、まず自分自身であること。自分自身を振り返る良い機会になったのではないでしょう。

今回このセミナーへお越しいただけなかった方やもう一度視聴したいという方のためにDVDを制作中です。ご希望の方には貸出いたします。貸出可能となりましたらホームページにてお知らせいたします♪  
<http://www.fab.oita-u.ac.jp/>

## 月刊トピックス

女性支援に関する事や  
情報などをご紹介します母性健康管理指導事項連絡カードを  
ご存じですか？

これは、働く女性が安心して妊娠・出産を迎えるためのサポートの一つです。勤務時間の短縮・時差通勤・休憩時間の延長等が必要と医師等から指導を受けた妊婦さんが、その指導内容を事業主の方の的確に伝える事を目的としたカードです。上司に直接話しにくい内容や体調について、誤解なくこのカードで報告することができます。

カードの詳細については、下記ホームページをご覧ください。また、女性研究者サポート室の両休憩室にも資料がございますのでお気軽にお立ち寄りください。

厚生労働省

<http://www.mhlw.go.jp/>

財団法人女性労働協会

<http://www.jaaww.or.jp/>

P i c k

u p

大分大学の教職員の方に登場していただき、女性研究者支援について、ご自身の事やこれまでに経験してきたことなどをお話していただくコーナーです。

今回ご登場していただくのは……福祉社会科学研究科 准教授 高島 拓哉さん

## 『私の視点』

私は社会学研究科の出身であるが、社会福祉や家族論などの分野を中心に、女子院生の数が大変多かった。研究については女性の先輩院生の方々から厳しくご指導いただいたのを覚えている。研究能力の高い女性たちの存在を身にしみ感じてきたところである。

現在の私の研究テーマは「地域社会レベルのアンペイドワーク」というものである。アンペイドワークとはフェミニズム理論の中で発展させられてきたもので、無償労働などと訳されている。先進国では、家事、育児、介護など家庭で無償で行われている家事労働を指している。アンペイドワークに縛られて雇用の上で不利な地位におかれてしまう問題や、アンペイドワークそのものが正当に評価されないことが、女性の地位を押し下げてきたメカニズムだといわれる。また、家事労働と雇用労働の二重負担も注目されており、私の研究はこれに加えて町内会やPTAなど地域社会での負担との重複に注目するものである。研究者にもこれらの重複の問題はあろう。夜間の大学院授業が多い中でPTAの役員をしている私の現状もそうであるが、女性であれば家事負担がさらに重かったところであろう。そういう視点で問題を見ているところである。

